

平成27年度企画展

とっとり県民カレッジ連携講座

第10回中国四国地区アーカイブズウィーク連携事業

63年前の

鳥取大火



迫る炎の前に家財・商品運び出す人々（とりせん角）

平成27年 **4月22日(水) ~ 6月7日(日)**

4月29日(水)、5月3日(日)~6日(水)、5月31日(日)は休館

●開館時間 午前9時~午後5時

●場所/お問い合わせ **鳥取県立公文書館** (展示コーナー)

鳥取市尚徳町101 電話: 0857-26-8160

<http://www.pref.tottori.lg.jp/kobunsho>

入場無料

鳥取大火とは

昭和27（1952）年4月17日午後2時55分頃、鳥取市吉方の市営動源温泉付近から出火^{*1}。この日は、フェーン現象による強い南風が吹いていたため、火は瞬く間に燃え広がり、旧市街地の3分の2を焼き尽くした。鎮火したのは、火災発生から約12時間後の翌18日午前3時頃であった。

鳥取測候所の記録によると、4月17日午後3時の気温は25.3℃、湿度は、28%と極めて乾燥した状況であった。そこへ風速10.8mの南南西の強風が吹き付けており、一度発生した火は瞬く間に燃え広がっていった。

午後7時、火の手が鹿野街道に迫った頃、風速は5.5mに弱まったが、午後11時には風速13.5mを記録し、鋳物師町（現、寿町）の西中学校まで延焼した。


翌18日午前2時頃、雨が降り始めた頃から火勢は弱まり、午前3時頃によりやく鎮火した。

火災発生の原因は諸説あり^{*2}、2カ月に及ぶ捜査が行われ、1千人以上の関係者が取り調べを受けたが、出火原因の特定には至らなかった。

被害の状況

この大火による被害は、死者2人、負傷者3,966人、罹災者数は2万4千人に上った。焼失建物は個人の家屋5,228戸、公共営造物・会社銀行等510棟（官公署14、学校5、病院その他厚生施設5、



鳥取駅南側からみた大火発生直後の様子 

駅南側からとらえた写真は少なく、貴重である。



家財道具を運ぶ人々（場所不明）

人々は、家財道具を運び出すことが精一杯で、火の入った家屋を気にかける様子はない。



真宗寺（現、元町）付近 

左に見える墓地は、昭和29年に円護寺へ移転し、跡地には元町公園が整備された。

*1 動源温泉付近から出火する前に、裏手の空家から出火（ただちに鎮火）している。

*2 原因の一つとして蒸気機関車からの飛び火が疑われたが、確証は得られなかった。



鳥取大火延焼図


銀行8、百貨店1、映画館3などで、被害総額は193億2,639万円（推定）に上るなど、戦後では国内最大級の火災となった。^{*1}

被害状況で特に目立つのは、住宅家屋と商業関係施設である。罹災世帯のうち大半を占めていたのが商店や工場などで、鳥取市の商工業に壊滅的な打撃を与えた。

焼失区域が広範に及んだのは、火元の火災が飛び火して16カ所^{*2}で新たな火災が発生し、それぞれ燃え広がったこともある。また、防火帯の役割を果たしていた袋川を越えたことで、智頭・鹿野街道の中心部を焼き、被害を大きくした。当時、袋川に沿って、昭

和18（1943）年の鳥取大震災後に建てられた応急仮設住宅（バラック）が並んでいたことも影響した。



外壁が残る国警ビル 

智頭橋の北詰にあった鉄筋コンクリート3階の建物。

*1 『鳥取市大火災誌（災害救護篇）』（鳥取県庁・鳥取市編、1952年刊）

*2 「第四図 延焼等時線」（『昭和27年4月17日 鳥取大火と気象概報』、鳥取測候所）

^{えびす} 戎町の富士銀行（現在は島根銀行）、二階町の五臓圓、西町の鳥取図書館はいずれも鉄筋コンクリート製で、猛火に耐えた建造物である。一方で、駅前通りの一部は、市民のバケツリレーにより、延焼を防ぐことができた。



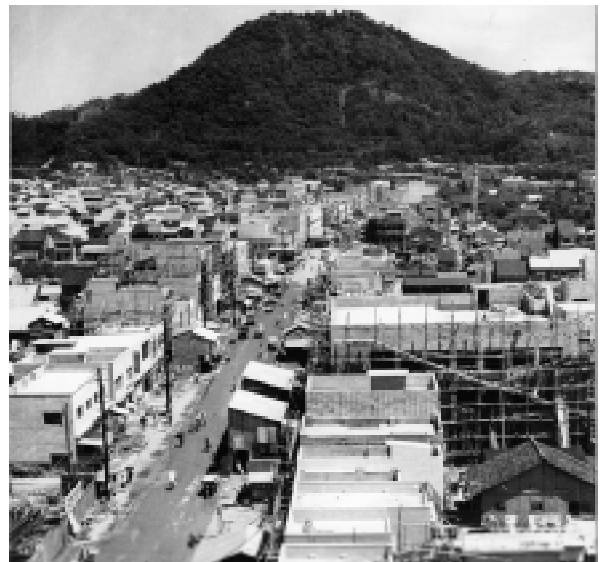
復興の開始

西尾愛治知事は、火災の発生と同時に県庁内で善後策を協議し、災害救助法の規定に基づき、鳥取県災害救助隊及び災害救助対策本部を設置した。また、同本部から入江昶^{あきら}鳥取市長に対し、災害救助隊鳥取支隊の要請が行われ、災害救助態勢が整った。

4月18日の午前0時、鳥取県からの要請に応じ、警察予備隊米子部隊 203名が鳥取駅に到着し、市内各所で救助活動を行った。政府内にも鳥取市大火災害対策本部が設置され、救護と復興対策についての協議が開始された。建設省には、本県出身の中田政美事務次官^{*4}、石破二郎計画局長が在職中であつたが、相次いで来鳥し、早期復興に尽力した。

防火建築帯

復興都市計画にあたって、1) 火災防止の役割を果たした土地区画整理、2) 水量・水圧が十分な上水道の整備、3) 消防活動を妨げないための街路整備が盛り込まれた。中でも若桜街道は、耐火建築促進法による防火建築帯設定の全国第一号の指定を受け、鉄筋コンクリート2・3階建ての近代的な商店街へと生まれ変わった。さらに、鳥取駅から県庁までの約1.3kmの通りを22mに拡張し、災害に強い街づくりの建設が行われた。



若桜街道防火建築帯（昭和28年8月）



鳥取市防火鉄筋建築商店街（昭和30年代の絵葉書）

*3 警察予備隊は昭和25（1950）年10月に組織され、同27年10月には保安隊に改組された。

*4 中田政美は、八頭郡八頭村（現八頭町）出身の官僚で、昭和27年10月に衆議院議員となった。